○議長（前原英石君）　１番　森　弘秋君。

○１番（森　弘秋君）　私からは、小学校における祖父母の学習参観及び学力テストの公表について質問をいたします。

初めに、小学校においても祖父母の学習参観を実施すればと思うわけでありますが、ご存じのとおり、小学校における学習公開は常道であり、保育所の保育参観及び祖父母参観は、これもまた常道であります。参観をされ、それぞれの祖父母は、孫の学習風景を見て、悦に入っておられるところであります。

子どもの教育について、親が親としての役割と責任を果たすのが重要であり、以前のように子育てを応援してくれる人が身近なところに多くいたころは、日常の生活での人々の交流の中で、親としての心構えや子どもと接するときに大切なことなどは自然に伝えられ、身につけることができました。

しかし、少子化や核家族化が進む中で、また人間関係が希薄化する中で、これまでのようにいかなくなってきております。

昨今言われておりますが、親が親としての役割と責任を果たしていないと断言はできませんが、今ここに来て、親としてのあり方を学習すること、すなわち「親学び」が必要であると言われてきております。

親学び講座は平成１８年から始まり、この講座は答えを見つけたり、回答が１つであるような課題を設定しておらず、子育てに関する悩みや課題を話し合う中で、親自身が気づき、考え、成長していくことを狙いとしているのであります。平成２４年には、少学校では７２％、中学校では５３％が実施しております。

さて、全く視点を変えて、育児をしながら働く女性、いわゆる働くママが、全国平均、５２．４％であります。約半数であります。富山県が全国で第５位であり、６８．３％であります。

これは総務省の調査によるもので、１位が島根県の７４．８％、２位が山形県７２．５％、３位が福井県７２．１％、４位が鳥取県と続きます。先ほど言いましたように、富山県は５位です。最下位が神奈川県の４１．１％であります。

富山県のママさんが安心して働くためにも、もっと祖父母にも子育てに関心を持ってもらい、頑張ってもらうために、一つの方法として、もう既に実施されている祖父母との交流を取り入れる「祖父母参観」等が必要ではなかろうか。

先日、富山市の小学校で祖父母参観が行われ、児童が祖父母に学習成果を見てもらい

交流を深めたとありました。この実施は、学校での孫の様子を見てもらうためとありますが、考えてみると祖父母もまた子育てに参画をしてもらうという狙いが見えてきます。まさに子育てを応援してくれる人が身近なところに多くいないと言われている昨今であるからこそ、学習指導、生活指導に祖父母にもかかわってもらう。

先ほども申しましたが､幼稚園､保育所の祖父母参観は当たり前かつ必要と考えます。そこで、孫の育成に参画しておられる祖父母の学習参観を実施されてはと考えます。このことから、子どもたちの学力向上につながり、非行防止に少しでもつながれば、効果大ではなかろうかと考えます。

とかく周囲と歩調を合わせるのもよいかもしれませんが、少し先駆に進めてもよいではありませんか。発展的に拡大することを考えてもらいたいと思います。

このような状況を踏まえ、舟橋小学校では、まずは低学年に限り、祖父母参観を取り入れ、実施する考えはできないだろうか。村教育委員会の発展的な見解をお答え願います。

次に、学力テストの成績の公表についてであります。

先ほども明和議員から質問がありましたが、私からも、生徒の向学心の醸成かつ学力向上のために、重複ではありますが、質問をさせていただきます。

今ほど明和議員は、効果的な公表、村民みんなで子育てをすることに努めてほしいという話がありました。

さて、知事が先日の記者会見で、全国学力テストの結果を、自治体単位で学校別の成績を公表することについて、学校現場の意見を踏まえ必要と判断したのであれば意向を尊重してもよいと思っていると一定の理解を示しておられました。また、競争をあおることは望ましくないとした上で、学校ごとに差があると示すことが全体の学力の向上にプラスになると判断できるかが問題だとも報道されていました。これは、「児童生徒の学力が少しでも向上するならば」との思いからではないかと考えます。どうだろうか。

文部科学省は、平成２６年度から全国学力テストの実施要領を変更し、自治体判断に任せて、教育委員会による学校別の成績公表を認めることとしました。一覧表にしたり順位をつけたりすることは認めないものの、学校別の成積の公表を認める。ただし、公表には結果分析と改善策を義務づけるとしています。

県内では、滑川市教育委員会が４月に実施した全国学力テストの結果概要を初めて公表しましたが、県平均との比較では数ポイント下回ったが、教育長は、結果を真摯に受

けとめながら授業改善を進め、学力向上に積極的に取り組むとした。

同じく富山市教育委員会も結果を公表した。おおむね全国平均を上回ったものの、問題によっては課題を残し、県平均では下回ったとしている。教育長は、結果をしっかり分析し、市教育委員会事務局が意識を高めて指導を改善するとしております。

そのほか、高岡市教育委員会及び氷見市教育委員会が公表をしております。それぞれが、公表によってさらなる学力向上を目指したい。分析を踏まえ、授業の改善に取り組むとしております。

その他の教育委員会は調査しておりませんが、このように教育委員会は今後の学力向上を目指したいとしているところから、公表行為は必ずしも児童生徒の向学心を阻害するものではなく、むしろ公表を糧にして一歩も二歩も前進する、させていくことになると思われます。

先ほど教育長は、明和議員さんの答弁に、調査結果の公表、本校の教育目標を見失うことなく実施したいというような答弁がありました。

かなめは、結果をどう分析し、どう生かすかであります。が、舟橋村は一村一校であるところから、慎重に取り扱うことが重要であると考えます。

既に調査済みと思いますが、近隣市町の動向を見ながら判断をしていくことになるのではないか。

村教育委員会が公表の必要性とどのような方向に進められるのか、大局的な見地から考え方をお願いいたします。

○議長（前原英石君）　教育長　髙野壽信君。

○教育長（髙野壽信君）　森議員さんのご質問にお答えします。

舟橋小学校の運動会、学習発表会、授業参観には、保護者をはじめたくさんの方においでいただき、一人一人の子どもが張り切って活動する場面が多々あり、感謝しております。

さて、ご質問の祖父母の授業参観ですが、結論から申しますと、とても意義のあることと思います。家庭教育の大切さは常々言われており、保護者だけでなく、祖父母も子どもの成長にかかわることができれば、子どもの心がより豊かになるものと考えております。子どもの健全な成長には、家族みんなの役割が大切です。

保護者が家に帰ってくるまで面倒を見ている祖父母でも、遠く離れている祖父母でも、学校の生活を知らないのでは会話が弾みません。担任はどんな先生か、クラスの友達の

様子や勉強の様子などを知っていたら、適切なアドバイスができるものと思います。逆に、祖父母が学校に来て自分の体験や知識・技能を生かすことができれば、子どもからの信頼も増えるのではないかと思います。

舟橋小学校の児童数は２５９名、学級数は１３です。新しい行事を組むためには、時間、予算、場所、その他祖父母がいない児童への配慮などの生徒指導上の問題も含めて課題がたくさんありますが、授業参観のあり方や内容を研究し、地域、保護者、関係機関の協力を得ながら検討してまいりたいと思います。

２つ目のご質問ですが､明和議員さんのご質問とほぼ同じではないかと思いますので、さきの答弁をもってご理解いただきますようお願いいたします。

なお、一、二つけ加えさせていただきますと、中学校のほうで、何らかの形で学習結果の報告はしなければいけないだろうということで、保護者各位に対して、平成２５年度全国学力・学習状況調査を終えてということで、国語の実態、そして対策、数学における実態、対策、それから生徒質問紙の実態、対策、あと、学校から保護者へのお願いということで一文出ております。

なお、これ以外のことというよりも、先ほども答弁しましたように、改めて学校と協議をし、どのような公表がよいかということをこの後考えていきたいと思っております。

もう一つつけ加えさせていただきますと、１２月４日の新聞の社説で､「学校別公表は懸念多い」と題して記事が載せてありました。静岡県の例ですが、成績の悪かった小学校６年生の児童が「校長先生、うちの学校が公表されなくてごめんなさい」と謝ったそうです。これが真の教育だろうかと結んでありました。

「教育の村」と村民みんなが誇りにしている本村の教育に携わっている者として、皆様のお力添えをいただきながら、よりよい方向を模索していきたいと考えております。

以上をもちまして、森議員さんのご質問への答弁とさせていただきます。

○議長（前原英石君）　森　弘秋君。

○１番（森　弘秋君）　今ほど、答弁ありがとうございました。

祖父母参観の中で、確かにおっしゃるとおり、親御さんがいないという場合の対応、実際実施している学校等を見ますと、そういう場合は祖父母参観といえども、保護者といいますか、親の参観も許しておるということですので、そこらあたりは限定しないで、学習公開は学習公開でありますので、祖父母参観とした場合でもやっぱり限定しないで実施してもらいたいと。そうしないと、やっぱりいろいろと問題、そういうふうになる

と思いますので、そこらあたり考えられて、なるべくならばそういった方向で実施をしてほしいというふうに思います。

それから、学力テストの公表ですが、県下でも相当、私は公表……。要するに、文部科学省は来年の４月から、平成２６年度と言っておるのですが、既にもう、私、その後の調査はしてませんけれども、結構聞いておる範囲ではやっておるということですので、あくまでも目的といいますかね、生徒の学力向上という目的を見失わないで、より効果的な方法でもってやはり私はしたほうがいいんじゃないかというふうに思いますんで、このことを踏まえて今後の検討――教育長は、検討してまいりますというふうな話だったんで、検討は検討でいいんですが、前向きな検討ということでひとつよろしくお願いいたします。

終わります。

○議長（前原英石君）　教育長　髙野壽信君。

○教育長（髙野壽信君）　教育に携わっていたことのある者としてお答えします。

授業参観の場合、保護者が来るか来ないか、子どもたちは本当に後ろを向いて、今来ただろうか、今来るだろうか、そして保護者が来れば、僕は当たるだろうかといつもどきどきしております。教師は本当に一人一人の子どもたちが楽しく学校生活を過ごせるように配慮しております。

確かに、簡単に父親参観の授業をやろうといったときにも、父親のいない家庭に対してどうするかということをすごく難しく考えた記憶があります。祖父母についても、例えばそのことが原因で保護者と祖父母の不和が何らかの形で起きたらどうなるだろうか、そういったこともいろいろな調査から、調査といいながら、遠回しではありますが、実際その家庭はどのような状況だろうかということを日ごろのことも考えながら対応しております。

生徒指導というのは本当に常に危機管理で、何かあったときに、なぜこんなことをしたのだと言われないくらいに判断をしてからやっております。どうぞご理解をいただきたいと思います。

学力のほうについては、公表については、本村で子どもたちが本当に、やはりそのことで学力向上に向かうように、それのみに何とか行くように判断をして進めてまいりたいと思います。

競争ということにはやはりならないように、何とか子どもたちの応援をしてやると、

底上げをしているということが子どもたちにわかるように進めてまいりたいと思っております。

以上で答弁とさせていただきます。